

令和元年度第2回 総合教育会議 議事録

会議名称	令和元年度第2回 総合教育会議
開催日時	令和2年2月3日（月） 10時00分～11時00分
会 場	芦屋町 本庁舎3階 課長会議室
委員の出欠	<p>【委員】</p> <p>町 長 波多野 茂丸 〔出席〕</p> <p>教 育 長 三 柵 賢二 〔出席〕</p> <p>教育委員 長戸 隆弘 〔出席〕</p> <p>教育委員 井上 弘行 〔出席〕</p> <p>教育委員 本田 幸代 〔出席〕</p> <p>教育委員 吉崎 強志 〔出席〕</p> <p>【委員以外の出席者】（オブザーバー）</p> <p>副 町 長 中西 新吾</p> <p>学校教育課長 新開 晴浩</p> <p>生涯学習課長 本石 美香</p> <p>【事務局】</p> <p>企画政策課長 池上 亮吉</p> <p>企画政策課 企画係長 本郷 宣昭</p> <p>企画政策課 企画係 甲斐 智志</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 芦屋町さわやかプロジェクトについて 2 令和元年度の取り組み状況について（中間報告） 3 令和2年度総合教育会議の協議事項及びスケジュールについて 4 その他
合意・決定事項	○次回の会議は8月開催予定。令和元年度評価報告書について説明予定。緊急の事案があれば、その都度開催する。
傍聴者	なし

令和元年度第2回総合教育会議 議事録

1 町長あいさつ

本日は大変お忙しい中、第2回総合教育会議にご出席いただき、厚く御礼申し上げます。

今回の議題は、PDCAのC(CHECK)、つまり検証である。これで終わりではなく、A(ACTION)により改善していかなければならない。皆様についても教育界の変革を肌で感じているところであると思うが、芦屋町の教育を改革していくんだということを念頭に置いて議論していただきたい。

国の政策は、国が発案し、県が説明し、末端の市町村が実行するという構図であり、市町村が振り回されている現状は否めない。

しかし、教育というのは地域性があるわけで、芦屋町の教育は芦屋町らしく、「シビックプライドの醸成」「倫理観を持たせる」ということを柱に、じっくりと地に足を着けて取り組んでいただきたい。

話は変わるが、先日、長野県松本市に行った際、国宝の旧開智学校を視察してきた。松本市は随分前から様々な取り組みを行っており、教育委員の皆様においても、ぜひ松本市に見に行っていたきたいと思った。

全国の学力テストの県別の成績でも、北日本の県が上位であるのは、こういった取り組みをしているからなのだと感じた。成績が良いところは、我々が今行っている取り組みをもっと早くから行っているのだと感じさせられた。

芦屋町の教育についても、芦屋町らしく、じっくりと地に足を着けて取り組んでいただき、この総合教育会議で議論していただきたい。

3 議 題

(1) 芦屋町さわやかプロジェクトについて

※三柵教育長より説明。

【意見等】

○ 令和2年度版芦屋町さわやかプロジェクトは、教育大綱に基づき、簡潔で分かりやすいものになっていると思う。

芦屋東小学校で一人一台タブレットを用いた公開授業の様子を見て、芦屋町のICT教育が始まったのだなと感じた。先生がタブレットに戸惑っている様子も見受けられたが、これから授業の創意工夫など努力していただければと思う。今後の芦屋町の教育に期待する。

直近の学力検証委員会では、芦屋中学校の学力が振るわないことについて、福岡教育大学の生田教授からのアドバイスで、家庭での勉強の質と量が低いのではないかという話があった。中学校では授業だけでは限界があり、家庭学習をしないと追いつかないという話が印象的だった。

さわやかプロジェクトにも記載されているとおり、「家庭では、宿題や読書の時間を確保するために、スマホ・テレビ・ゲームの使用時間を1日1時間未満にしましょう。」

を実践し、家庭学習や読書に力を入れていくことができればよいと思った。(委員)

- これまでより文字が少なくなり、シンプルになったと思う。しかし、もっと文字を少なくできないか。柱である「シビックプライドの醸成」「学力向上」を大きく表記したり、ICTの表記を大きくしてもっとアピールしたりしてもよいと思う。

内容も難しく、今のレイアウトではあまり読まれないのではないだろうか。力を入れるところを大きく表記し、シンプルにしてはどうか。(委員)

- 「シビックプライドの醸成」「学力向上」が柱ではあるが、家庭学習や読書の時間の確保など、家庭でやってもらいたいことをもっと強調したほうがよいのではないか。均等なレイアウトになっており、全部読まないといけない。もっと家庭に見てもらいたい部分が、芦屋町の教育の目指すところだと思う。(委員)

- 「学力向上」の枠内に関する記載で「※家庭でもタブレットを使って復習します。」とあるが、可能なのか。(委員)

⇒ 家庭にあるタブレットを使ってeラーニングで復習することを想定している。学校にあるタブレットを持ち帰るものではなく、誤解を招く表現であるため削除する。(教育長)

(2) 令和元年度の取り組み状況について (中間報告)

1. 学校教育の取り組み

※三柵教育長より説明。

①学力向上の取り組みについて

令和元年度の取り組み

- 全国学力・学習状況調査から見えた成果と課題について説明する。

成果は、芦屋・芦屋東・山鹿の3小学校全てが国語・算数において全国平均を超えたことである。習熟度別学習、補充学習の取り組みが大きな成果につながったものと考えている。

課題は、芦屋中学校の基礎・基本の定着が十分にできていないことである。対応策として、北九州教育事務所の学力フォローアップ訪問の要請をし、指導を受けた。また、英語の補充を重点に置いた取り組みを行った。具体的には、イブニングスタディの英語について、これまでの希望制から指名制に変更し、120人中延べ77人が受講している。

令和2年度の取り組み

- 芦屋中学校の新1年生の放課後学習の充実として、小学校の小中連携教員が中学校1年生に対し、年度当初から1学期間、小学校の算数の復習を行う予定。

- 芦屋中学校の新2年生がこのままだと120名を下回り、これまでの4学級から3学級になる可能性がある。先生の定数次第ではあるが、4学級化し、目が行き届いた教育環境で学力低下を防ぐ予定。

②ICT教育の取り組みについて

令和元年度の取り組み

- 芦屋東小学校で、北九州教育事務所小学校市町間交流研修会が行われ、北九州地区の主幹教諭が訪れる授業参観が行われる。

- 日常の授業における ICT 機器の実践例を先生にまとめてもらい、効果的な事例の共有を図る。

令和2年度の取り組み

- 芦屋東小学校で ICT 機器を活用した算数科の学習指導について研究発表会を行う予定。また、各学校で実践記録集を発行し、先進事例の共有化を図りたいと考えている。

2. 社会教育の取り組み

※本石生涯学習課長より説明。

②歴史・文化の保護と振興について

令和元年度の取り組み

- 独立した鋳物師支援のため工房建設にかかる用地取得・造成・貸付等について、令和2年度内の工房完成、創業開始に向け、関係機関と連携して進めている。
- 独立を控えている鋳物師支援体制として、技術向上や実践機会の提供を行っている。また、中国青銅器の関係機関と鋳造研究の協力提携を結び、次に独立を控えている鋳物師が中心となって鋳造研究を進めている。
- 令和2年度からの任期付職員として工房業務従事員を1名採用することにしており、現在1名内定している。
- 芦屋釜復興事業の推進に向け、重要指定文化財である芦屋釜の購入及び環境整備に向けた取り組みの準備を進めている。
- 令和元年5月に、芦屋釜の里が表千家全国大会の会場の一つとして選ばれ、2日間で約1,100人が来場した。

令和2年度の取り組み

- インターネット・SNS等を活用した芦屋釜の里・芦屋釜に関する情報発信をさらに進めていく。
訪日外国人観光客の受け入れ体制の充実に取り組んでいきたい。また、体験プログラムの創出やお土産品の開発に努める。

【意見等】

なし

(3) 令和2年度総合教育会議の協議事項及びスケジュールについて

※事務局より説明

- 次第のとおり、年2回の開催を基本とし、8月上旬に1回目、2月に2回目を開催する案を提示。

【結果】

案のとおり了承される。

【意見等】

なし

(4) その他

※事務局より説明

- 次回の会議は8月上旬開催。事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告について説明予定。緊急の事案があれば、その都度開催する。